

46歳、4児の子育てをしている父親です。常日頃、子ども達には、様々な美しさを知ることで多様な溢れる社会の素晴らしさを感じ、人生を楽しんでほしいと思っています。

先日、東京国立近代美術館で行われた70周年記念展「重要文化財の秘密」を子ども達と鑑賞してきました。明治以降の作品で、重要文化財に指定された作品は68点。そのうち51点が展示されるという滅多にない機会。教科書で見る作品ばかりなので、実物の作品を見せてあげたいと思い、2時間、東海道線に揺られつつ、ワクワクしながら美術館へ足を運びました。

黒田清輝、横山大観、菱田春草、高村光雲、錚々(そうそ)

「たる作品の美しさ」に、子ども達も何度でも立ち止まり、無言で楽しみました。お土産で画集を買いましたが、美術館で見た作品から感じた迫力は、実物でしか感じられないと分かり、一緒に行って良かったと思います。

今回の展覧会の副

「問題作」が「傑作」になるまで

飯田理一朗

「最大の賛辞によって評価が覆りまして。美しくというのは、多種多様です。主観的な評価でありながら、多くの人達とも共感できる客観的な評価も同居します。私の好きな逸話として、『ゴッホの手紙』の著者である批評家の小林秀雄が、自分

に、絵としては複製の方がよいと、私は見てすぐ感じたのである。」小林秀雄が自身の「実体験」と「美意識」を優先させたこの逸話は、万人の評価を顧みず多くの作品を残した今回の展覧会の作者達にも通ずるものがあるのではないかと感じてい

題は「問題作」が「傑作」になるまで。その名の通り、展示された作品達が生まれた当初は、それぞれ「問題作」と呼ばれていました。当時としては斬新なテーマ、タッチ、色彩感覚。多くの批判を浴びてきました。しかし、この100年で「重要文化財」とい

が所有する「鳥のいる麦畑」の複製の方が、オランダのクレラ・ミューラー美術館で見た原画より美しいと評価した話があります。

「私の持っている複製は、非常によく出来たものだが、この色の生々しさは写し得ておらず、奇怪な事だが、その為

な西洋画の立体感や色彩感覚、光の捉え方は素晴らしいですが、日本画の一見、平面的な中に、私達が立体感を持つという感覚も再確認できました。今回の展覧会は、その点でうってつけでした。

人は世界に誇る美的感覚を持っていると言えるでしょう。つつい忘れがちではあります。私達は先祖から脈々と様々なものを受け継いでいます。美しいものを眺めながら、そんなことも感じます。

私達日本人は古来、遠近を階層(レイヤー)で捉える感覚があり、それを最も体現したのが日本庭園における「借景」です。一つの画角にありながら、近景・中景・遠景と階層的に捉えることができます。

この日本人らしい立体感覚が、世界でシリーズ累計5億6000万本以上販売している世界初の横スクロール型アクションテレビゲーム「スパーマリオアプラーズ」を生んだとすれば、私達日本

(原町中)

年同月比は... 減と、8カ月は... 前年を下回った... 業種別では... 品・たばこ、... チック製品、... 品・デバイス... 月から上昇す... 輸送機械、化... 用・生産用・... 機械等が低下... サッカーの... 中央シ杯・中... 手権大会で金... 沼津サッカー... は、第32回沼... ライオンズク... ・沼津市中学... カイ選手権大... 月22、23、2... 日間にわたり... 域公園多目的... で開き、金曜... 勝した。この大会は毎年の協賛で毎年、予選を勝ち抜いた4チームがベストナメントに